



## 2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月12日

上場会社名 古河機械金属株式会社  
 コード番号 5715 URL <https://www.furukawakk.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月14日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 宮川 尚久  
 (氏名) 三影 晃  
 TEL 03-3212-7021

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	35,246	13.1	791	63.3	1,280	42.6	829	54.5
2020年3月期第1四半期	40,570	8.6	2,155	12.6	2,230	17.2	1,820	4.5

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 7,246百万円 (297.1%) 2020年3月期第1四半期 1,825百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	21.15	
2020年3月期第1四半期	46.05	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	225,268	83,229	35.9
2020年3月期	209,697	77,966	36.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 80,808百万円 2020年3月期 75,543百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		50.00	50.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		0.00		50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	73,000	11.6	1,100	74.8	1,300	70.7	3,900	24.9	99.45
通期	148,000	10.4	2,000	77.0	1,500	81.6	3,700	16.5	94.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	40,445,568 株	2020年3月期	40,445,568 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	1,229,087 株	2020年3月期	1,229,045 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	39,216,496 株	2020年3月期1Q	39,541,368 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
2021年3月期 第1四半期決算短信 補足資料	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2020年4月1日から同年6月30日まで)の我が国経済は、2020年初頭に顕在化した新型コロナウイルス感染症が世界的に感染拡大する中で、4月には政府の緊急事態宣言が発出され、外出自粛による個人消費の減少に加え、企業の設備投資計画の先送りや見直しなどにより、国内における需要の下振れの影響は大きく、リーマン・ショック以来の大幅なマイナス成長となることが見込まれています。緊急事態宣言解除後は、社会・経済活動は徐々に再開し始めているものの、依然として新型コロナウイルス感染症の感染拡大の収束時期や世界経済に与える影響など不透明な状況が続いています。

このような経済環境の下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は、352億46百万円(対前年同期比53億23百万円減)、営業利益は、7億91百万円(対前年同期比13億64百万円減)となりました。各セグメントの新型コロナウイルス感染症の影響については濃淡がありますが、当第1四半期連結累計期間においては、全報告セグメントで減収減益となりました。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は、以下のとおりです。

## 〔産業機械〕

産業機械部門の売上高は、39億21百万円(対前年同期比8億56百万円減)、営業利益は、4億29百万円(対前年同期比39百万円減)となりました。マテリアル機械では、中間貯蔵施設(福島県双葉郡双葉町)向け関連設備の売上計上があった前年同期と比べ減収となりました。また、大型プロジェクト案件では、東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ、小名浜港湾国際バルクターミナル向けの荷役設備、中間貯蔵施設(福島県双葉郡大熊町)向けベルトコンベヤ等について出来高に対応した売上を計上しましたが、前年度に大部分の工事が進捗したことにより、減収となりました。

## 〔ロックドリル〕

ロックドリル部門の売上高は、52億8百万円(対前年同期比14億19百万円減)、営業損失は、3億33百万円(前年同期は2億37百万円の利益)となりました。国内では、緊急事態宣言発出後の工事の中断や延期を要因とする機械の稼働率の低下や新たな機械購入の一時的な見送りにより、油圧ブレーカや油圧クローラドリルなどの出荷が減少し、減収となりましたが、トンネルドリルジャンボについては、前年同期並みの出荷となりました。海外では、一部の国や地域を除いて、依然として外出制限が継続し経済活動が再開されていない状況で、特に、油圧ブレーカの出荷が北米において減少したほか、油圧クローラドリルの出荷も総じて振るわず、減収となりました。

## 〔ユニック〕

ユニック部門の売上高は、69億11百万円(対前年同期比12億19百万円減)、営業利益は、9億69百万円(対前年同期比87百万円減)となりました。国内では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響で、トラックの納入延期や、緊急事態宣言発出後の工事の中断や延期などにより、主力製品であるユニッククレーンの出荷が減少し、減収となりました。海外では、欧米におけるミニ・クローラクレーンの出荷は前年同期を上回り、増収となりましたが、ユニッククレーンの出荷は、特に景気減速傾向が強まっていた東南アジアにおいて減少したほか、経済活動が再開している中国でも、好調であった前年同期と比べ減少し、減収となりました。

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械事業の合計売上高は、160億42百万円(対前年同期比34億95百万円減)、営業利益は、10億65百万円(対前年同期比6億98百万円減)となりました。

## 〔金属〕

金属部門の売上高は、157億28百万円(対前年同期比12億91百万円減)、営業損失は、4億72百万円(前年同期は50百万円の利益)となりました。電気銅の海外相場は、4,772米ドル/トンで始まりましたが、中国や欧米諸国で経済活動が再開される中、景気回復への期待感から価格は上昇し5,000米ドル/トン半ばで推移、期末には6,038米ドル/トンとなりました。前年同期に対し、電気銅は海外相場の下落により減収、電気金は海外相場の上昇により増収となり、鉱石買鉱条件の悪化などにより減益となりました。

## 〔電子〕

電子部門の売上高は、11億78百万円(対前年同期比2億77百万円減)、営業利益は、12百万円(対前年同期比19百万円減)となりました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、特に自動車産業の生産活動に多大な影響を及ぼし、主力製品である結晶製品やコイルの需要が減少し、減収となりました。

## 〔化成品〕

化成品部門の売上高は、15億40百万円（対前年同期比2億円減）、営業利益は、50百万円（対前年同期比1億3百万円減）となりました。亜酸化銅は、販売数量は前年同期並みとなりましたが、販売単価は基準銅価の下落を主因として下落し、減収となりました。また、硫酸は、高付加価値品の増加などにより、販売単価は上昇しましたが、販売数量は減少し、減収となりました。

金属、電子および化成品の素材事業の合計売上高は、184億47百万円（対前年同期比17億68百万円減）、営業損失は、4億9百万円（前年同期は2億35百万円の利益）となりました。

## 〔不動産〕

不動産事業の売上高は、5億16百万円（対前年同期比1億9百万円減）、営業利益は、1億73百万円（対前年同期比27百万円減）となりました。主力ビルである室町古河三井ビルディング（商業施設名：COREDO室町2）については、商業施設は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、4月以降臨時休館となりましたが、賃料収入全体としては、大口テナントの減床があった前年同期と比べ、後継テナントの入居により、増収となりました。なお、不動産事業の売上高は、昨年12月末をもって古河大阪ビルが閉館したため、減収となりました。

当第1四半期連結累計期間の経常利益は、12億80百万円（対前年同期比9億50百万円減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、8億29百万円（対前年同期比9億91百万円減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、2,252億68百万円で、前連結会計年度末に比べ155億71百万円増加しました。これは主として、現金及び預金が増加したこと、また、上場株式の株価上昇により投資有価証券が増加したことによるものです。有利子負債（借入金）は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた資金繰りの対応として、取引金融機関から調達した長期運転資金100億円を含め、834億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ129億99百万円増加しました。純資産は、832億29百万円で、前連結会計年度末に比べ52億63百万円増加しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

## ①業績予想公表の理由

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき業績予想を算定しましたので、公表いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響やその影響が及ぶ期間については、セグメントごとに濃淡がありますが、それぞれ市場動向の推移や収束時期、また、生産・販売への影響等を想定し、業績予想を算定しました。なお、直近の動向を勘案し、第2四半期以降の銅価格は6,000米ドル/トン、為替は107円/米ドルとしています。

第2四半期累計期間の連結業績予想は、売上高730億円、営業利益11億円、経常利益13億円、特別利益に投資有価証券売却益を見込み、親会社株主に帰属する当期純利益は、39億円といたしました。

通期の連結業績予想は、売上高1,480億円、営業利益20億円、経常利益15億円、親会社株主に帰属する当期純利益37億円といたしました。

なお、業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況や収束の時期などの要因により変動する可能性があり、今後、業績予想の修正が必要と判断される場合には、速やかに公表いたします。

各報告セグメントの状況は、以下のとおりです。

## 〔産業機械〕

工事の中断や延期等による出来高の減少などの可能性はあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響については限定的なものと想定しております。しかしながら、当期は、前期と比べ、大口プロジェクト案件やマテリアル機械のプラント関連設備、橋梁等の売上高が減少し、産業機械部門の業績予想は、減収減益となる見込みです。

## 〔ロックドリル〕

国内では、第2四半期以降も機械の稼働率低下や機械購入の一時的な見送りが継続するものと想定しております。また、海外では、依然として経済活動に制約がある中で、本格的な回復には時間を要する国や地域も多く、ロックドリル部門の業績予想は、減収減益となる見込みです。

## 〔ユニック〕

国内では、第2四半期以降は、クレーン需要は緩やかに回復していくことを想定しておりますが、移動式クレーン構造規格の一部改正前に駆け込み需要のあった受注機の出荷や大手レンタル向けの出荷が好調であった前期と比べ、ユニッククレーンの出荷は減少するものと想定しております。また、海外では、依然として経済活動に制約がある中で、本格的な回復には時間を要する国や地域も多く、ユニック部門の業績予想は、減収減益となる見込みです。

## 〔金 属〕

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた電気銅の国内需要の減少については、輸出へ振り向けることで販売数量は、ほぼ前期並みを想定しておりますが、想定金属価格および想定為替相場により算定した金属部門の業績予想は、減収となり、鉱石買鉱条件の悪化を主因として減益となる見込みです。

## 〔電 子〕

新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けている自動車産業などの生産活動は、第2四半期以降、国内外において緩やかに回復し、常態に戻るものと想定しておりますが、主力製品である結晶製品、コイルなどの需要回復は遅れ、電子部門の業績予想は、減収減益となる見込みです。

## 〔化成品〕

新型コロナウイルス感染症の影響は、酸化チタンや自動車関連向けなど、硫酸の需要に影響を及ぼしているものの、第2四半期以降は緩やかに回復し、その影響は限定的なものと想定しております。化成品部門の業績予想は、第1四半期の販売数量減少を主因として、減収減益となる見込みです。

## 〔不動産〕

主力ビルである室町古河三井ビルディング（商業施設名：COREDO室町2）の商業施設については、6月以降、営業を順次再開しておりますが、平常時の状況に戻るまでは時間を要するものと想定しております。室町古河三井ビルディング全体の賃料収入は、大口テナントの減床のあった前期と比べ、後継テナントの入居もあり、増収となる見込みですが、昨年12月末をもって古河大阪ビルが閉館したため、不動産事業の業績予想は、減収減益となる見込みです。

## ②配当予想公表の理由

当社は、株主還元を充実させていくことを心掛けるとともに、収益の確保に不可欠な設備投資、研究開発等に必要なる内部留保を念頭に、今後の事業展開、その他諸般の事情を総合的に勘案して、成果の配分を実施することを基本方針としており、原則として、連結による損益を基礎とし、特別な損益状態にある場合を除き、1株当たり50円の年間配当金および連結配当性向30%以上をめどに、安定的・継続的な利益還元を努めていくこととしております。

したがって、2021年3月期の第2四半期および期末の1株当たり配当金につきましては、業績予想と同様に未定としておりましたが、このたび算定した業績予想を踏まえ、第2四半期は無配、期末は1株当たり50円00銭とさせていただきます。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,647	23,403
受取手形及び売掛金	30,653	25,748
商品及び製品	16,950	18,321
仕掛品	10,514	10,907
原材料及び貯蔵品	10,944	12,954
その他	4,179	7,868
貸倒引当金	△163	△160
流動資産合計	85,725	99,042
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,219	22,841
土地	53,497	53,412
その他(純額)	13,120	13,028
有形固定資産合計	89,838	89,282
無形固定資産	361	343
投資その他の資産		
投資有価証券	27,336	31,478
その他	7,009	5,686
貸倒引当金	△575	△564
投資その他の資産合計	33,771	36,600
固定資産合計	123,971	126,225
資産合計	209,697	225,268

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,531	12,615
電子記録債務	10,331	8,929
短期借入金	11,581	14,890
未払法人税等	729	275
引当金	109	96
その他	20,271	19,840
流動負債合計	52,555	56,648
固定負債		
長期借入金	58,831	68,522
引当金	134	135
退職給付に係る負債	9,511	5,157
資産除去債務	229	230
その他	10,469	11,345
固定負債合計	79,175	85,390
負債合計	131,730	142,038
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	44,507	43,376
自己株式	△1,697	△1,697
株主資本合計	71,018	69,886
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,363	8,739
繰延ヘッジ損益	△322	376
土地再評価差額金	2,620	2,620
為替換算調整勘定	△339	△738
退職給付に係る調整累計額	△2,797	△76
その他の包括利益累計額合計	4,525	10,921
非支配株主持分	2,423	2,421
純資産合計	77,966	83,229
負債純資産合計	209,697	225,268



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)
売上高	40,570	35,246
売上原価	34,109	30,352
売上総利益	6,460	4,894
販売費及び一般管理費	4,304	4,102
営業利益	2,155	791
営業外収益		
受取配当金	404	423
その他	221	438
営業外収益合計	626	861
営業外費用		
支払利息	128	118
休鉱山管理費	175	181
為替差損	182	—
その他	64	72
営業外費用合計	551	372
経常利益	2,230	1,280
特別利益		
固定資産売却益	586	16
その他	0	—
特別利益合計	586	16
特別損失		
固定資産除売却損	17	77
災害による損失	29	—
廃棄物処理費用	12	—
その他	1	—
特別損失合計	60	77
税金等調整前四半期純利益	2,756	1,218
法人税、住民税及び事業税	409	146
法人税等調整額	461	192
法人税等合計	870	339
四半期純利益	1,885	879
非支配株主に帰属する四半期純利益	64	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,820	829

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月 1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月 1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	1,885	879
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107	3,376
繰延ヘッジ損益	△5	688
為替換算調整勘定	60	△266
退職給付に係る調整額	△38	2,720
持分法適用会社に対する持分相当額	31	△152
その他の包括利益合計	△60	6,367
四半期包括利益	1,825	7,246
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,750	7,225
非支配株主に係る四半期包括利益	74	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行に合わせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の感染拡大による影響や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	4,778	6,627	8,131	17,019	1,455	1,741
セグメント間の 内部売上高又は振替高	796	0	34	62	—	13
計	5,574	6,627	8,165	17,082	1,455	1,754
セグメント利益又は損失 (△)	469	237	1,057	50	32	153

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	625	40,379	190	40,570	—	40,570
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5	911	404	1,316	△1,316	—
計	630	41,291	595	41,886	△1,316	40,570
セグメント利益又は損失 (△)	200	2,200	△25	2,175	△19	2,155

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。  
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△19百万円には、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△27百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。  
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年6月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	3,921	5,208	6,911	15,728	1,178	1,540
セグメント間の 内部売上高又は振替高	664	—	29	56	0	13
計	4,585	5,208	6,940	15,785	1,178	1,554
セグメント利益又は損失 (△)	429	△333	969	△472	12	50

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	516	35,006	240	35,246	—	35,246
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3	766	445	1,211	△1,211	—
計	519	35,773	685	36,458	△1,211	35,246
セグメント利益又は損失 (△)	173	829	△17	812	△21	791

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△21百万円には、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△26百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」及び「炭鉱跡資産」関連費用です。  
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

前提

			対前年同期増減	
銅価	第1四半期決算	\$/mt	5,341	773
	2020年7月以降	\$/mt	6,000	225
	年度予想	\$/mt	5,835	25
為替	第1四半期決算	円/\$	107.6	2.3
	2020年7月以降	円/\$	107.0	1.4
	年度予想	円/\$	107.2	1.6

## 2021年3月期 第1四半期決算短信 補足資料

2020年8月12日

古河機械金属株式会社

## (売上高)

(単位:百万円 単位未満切捨て)

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減
	第1四半期	第1四半期	
機械事業	19,537	16,042	3,495
産業機械部門	4,778	3,921	856
ロックドリル部門	6,627	5,208	1,419
ユニック部門	8,131	6,911	1,219
素材事業	20,216	18,447	1,768
金属部門	17,019	15,728	1,291
電子部門	1,455	1,178	277
化成品部門	1,741	1,540	200
不動産事業	625	516	109
その他	190	240	49
【合計】	40,570	35,246	5,323

2021年3月期			
第2四半期累計予想	対前年同期増減	年度予想	対前年増減
33,100	7,691	67,600	15,091
8,000	1,961	17,100	6,137
11,400	3,005	23,200	4,463
13,700	2,724	27,300	4,491
38,500	1,664	77,600	1,766
33,000	931	66,200	949
2,500	332	5,100	406
3,000	401	6,300	410
1,000	221	2,100	286
400	34	700	71
73,000	9,542	148,000	17,215

## (営業利益)

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減
	第1四半期	第1四半期	
機械事業	1,764	1,065	698
産業機械部門	469	429	39
ロックドリル部門	237	333	570
ユニック部門	1,057	969	87
素材事業	235	409	645
金属部門	50	472	523
電子部門	32	12	19
化成品部門	153	50	103
不動産事業	200	173	27
その他	25	17	8
(計)	2,175	812	1,362
調整額	19	21	1
【合計】	2,155	791	1,364

2021年3月期			
第2四半期累計予想	対前年同期増減	年度予想	対前年増減
1,600	1,889	2,500	4,843
600	379	1,300	1,908
600	988	1,550	1,692
1,600	520	2,750	1,242
750	1,329	950	1,726
800	1,106	1,100	1,401
100	91	250	214
150	131	400	110
350	24	650	85
50	1	100	5
1,150	3,244	2,100	6,661
50	15	100	31
1,100	3,259	2,000	6,693

参考情報(以下の数値は参考値です)

## 1.産業機械部門受注残

産業機械については主に受注生産を行っており、当第1四半期会計期間末における受注残を示すと、次のとおりです。

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減
	第1四半期会計期間末	第1四半期会計期間末	
受注残	140億円	73億円	67億円

## 2.金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2020年3月期	2021年3月期	対前年同期増減
	第1四半期累計期間	第1四半期累計期間	
営業利益	0.5億円	4.7億円	5.2億円
内価格影響分	0.4億円	2.3億円	1.9億円
銅	( 0.1億円)	( 3.1億円)	( 2.9億円)
金	( 0.1億円)	(0.8億円)	(1.0億円)